

小学生・中学生の
生活事情— 2023年小学生白書・
中学生白書から —小学生「悩み事ある」42%、
1位は「学校での友だちとの関係」

学研教育総合研究所では毎年小学生を中心に調査を行い、結果を「白書」としてWebで公開している。2023年も秋に調査を行い、12月末に子どもたちの生活実態について公開した。今回は前編として、その内容からお伝えしたい。

学研教育総合研究所 川田夏子

回答あり。

学年別に見ると、1年生と2年生では、「自宅」（1年生64・0%、2年生69・5%）に次いで多かったのが、「学童」（1年生35・0%、2年生28・0%）で、3年生以降はこの数値が減少し、「自宅」「公園・運動場」「友達の家」などに分散しているように見てとれる。

◆「悩み事」ユウソク

今、悩んでいることがあるか、それはどんなことを聞いた。

〈小学生〉

全体では「悩み事がある」児童の割合は41・6%。「悩み事はない」と答えた児童の割合は58・4%だった。悩み事の内容は、1位「学校での友だち関係」（15・8%）、2位「学習に関すること」（14・8%）、3位「学校での先生との関わり」（7・0%）。男女別に見ると、男子では「学習に関すること」、女子では「学校での友だち関係」が1位となった。（資料1参照）

〈中学生〉

同様に中学生では、「悩み事がある」生徒の割合は60・8%、「悩み事はない」と答えた生徒は39・2%だった。学年別に見ると、上の学年になるほど「悩み事がある」割合が高く、3

〈小学生〉

2023年調査は、毎年実施する小学生に加えて中学生も対象に行っていた。質問項目はほぼ同じであるため、小学生と中学生とを並べて見られる結果となった。また、質問内容については時代の変化を鑑みて、少し変更を加えた。2023年はこども家庭庁が発足、「いじめ」「不登校」「こどもの居場所」といった子どもを取り巻く報道も多かったと感じる。そのため、子どもたちの生活実態を知りたいという観点から「放課後の過ごし方」などを質問項目に加えた。

〈中学生〉

中学生では、全体の平均で、多い順に「インターネット（動画視聴など）」（72分）、「クラブ活動」（65分）、「塾・習い事」（63分）、「テレビ視聴」（61分）、「ゲーム」（59分）、「宿題・勉強」（54分）、「友だちと会話」（40分）、「友だちとメッ

セージのやり取り（LINEなど）」（29分）、「本・漫画を読む」（22分）、「外遊び」（17分）と続いた。

小学生のテレビ視聴時間が思ったより長い。家族との食事時間中の視聴や、時計代わりとして使われていることもあるのだろうか。一方で中学生では、小学生に比べてネットの動画視聴の比率が増え、次いでクラブ活動、塾・習い事と続いた。ネット視聴については、その内容が気になるところだ。

小学生については、放課後過ごす場所についても聞いた。

〈どこで過ごす？小学生〉

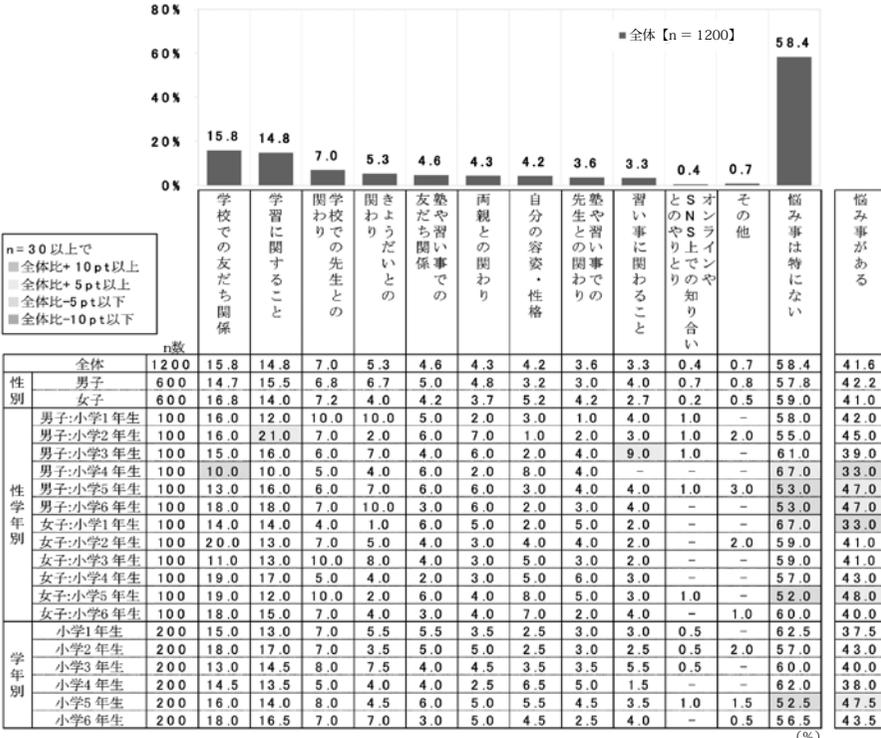
小学生全体では、「自宅」（68・7%）、「公園・運動場」（25・0%）、「友だちの家」（21・3%）、「学童」（18・4%）、「習い事」（11・8%）と続いた（複数

◆「放課後の過ごし方」を
時間で見る

まずは、今回新たに加えた調査について。子どもたちは、放課後どんなことをして過ごしているのだろうか。

資料1 小学生白書 悩み事について

◆今、悩んでいることがありますか。(あてはまるものをすべて)



n = 30 以上で
 ■全体比+10pt以上
 ■全体比+5pt以上
 ■全体比-5pt以下
 ■全体比-10pt以下

		n数	15.8	14.8	7.0	5.3	4.6	4.3	4.2	3.6	3.3	0.4	0.7	58.4	41.6
性別	全体	1200													
	男子	600	14.7	15.5	6.8	6.7	5.0	4.8	3.2	3.0	4.0	0.7	0.8	57.8	42.2
	女子	600	16.8	14.0	7.2	4.0	4.2	3.7	5.2	4.2	2.7	0.2	0.5	59.0	41.0
性学年別	男子:小学1年生	100	16.0	12.0	10.0	10.0	5.0	2.0	3.0	1.0	4.0	1.0	-	58.0	42.0
	男子:小学2年生	100	16.0	21.0	7.0	2.0	6.0	7.0	1.0	2.0	3.0	1.0	2.0	55.0	45.0
	男子:小学3年生	100	15.0	16.0	6.0	7.0	4.0	6.0	2.0	4.0	9.0	1.0	-	61.0	39.0
	男子:小学4年生	100	10.0	10.0	5.0	4.0	6.0	2.0	8.0	4.0	-	-	-	67.0	33.0
	男子:小学5年生	100	13.0	16.0	6.0	7.0	6.0	6.0	3.0	4.0	4.0	1.0	3.0	53.0	47.0
	男子:小学6年生	100	18.0	18.0	7.0	10.0	3.0	6.0	2.0	3.0	4.0	-	-	53.0	47.0
	女子:小学1年生	100	14.0	14.0	4.0	1.0	6.0	5.0	2.0	5.0	2.0	-	-	67.0	33.0
	女子:小学2年生	100	20.0	13.0	7.0	5.0	4.0	3.0	4.0	4.0	2.0	-	-	59.0	41.0
	女子:小学3年生	100	11.0	13.0	10.0	8.0	4.0	3.0	5.0	3.0	2.0	-	-	59.0	41.0
	女子:小学4年生	100	19.0	17.0	5.0	4.0	2.0	3.0	5.0	6.0	3.0	-	-	57.0	43.0
	女子:小学5年生	100	19.0	12.0	10.0	2.0	6.0	4.0	8.0	5.0	3.0	1.0	-	52.0	48.0
	女子:小学6年生	100	18.0	15.0	7.0	4.0	3.0	4.0	7.0	2.0	4.0	-	1.0	60.0	40.0
学年別	小学1年生	200	15.0	13.0	7.0	5.5	5.5	3.5	2.5	3.0	3.0	0.5	-	62.5	37.5
	小学2年生	200	18.0	17.0	7.0	3.5	5.0	5.0	2.5	3.0	2.5	0.5	2.0	57.0	43.0
	小学3年生	200	13.0	14.5	8.0	7.5	4.0	4.5	3.5	3.5	5.5	0.5	-	60.0	40.0
	小学4年生	200	14.5	13.5	5.0	4.0	4.0	2.5	6.5	5.0	1.5	-	-	62.0	38.0
	小学5年生	200	16.0	14.0	8.0	4.5	6.0	5.0	5.5	4.5	3.5	1.0	1.5	52.5	47.5
	小学6年生	200	18.0	16.5	7.0	7.0	3.0	5.0	4.5	2.5	4.0	-	0.5	56.5	43.5

※全体の値を基準に降順並び替え
 © 学研教育総合研究所

年生では68・0%に上がった。悩み事の内容は、1位「学習に関すること」(35・2%)、2位「学校での友だち関係」(20・7%)、3位「学校での先生との関わり」(9・0%)。

小学生女子で1位だった「学校での

友だち関係」は、中学2年生女子では1位(31・0%)だが、中学3年生女子では2位(27・0%)で、1位は男女ともに「学習に関すること」(男子55・0%、女子38・0%)だった。男子が学習面、進路進学などで悩む割合

◆ 悩み事は誰に相談する？

が高いが、内訳を見る必要がありそう。だ。

不安や悩みがあるときに誰かに相談するかどうかを聞いた。小学生では「相談する」が89・4%、「相談しない」が10・6%(資料2)。中学生では「相談する」が90・7%、「相談しない」が9・3%となった。男女・学年別に見ると、「相談しない」と回答した児童生徒の割合は、小学生男子11・5%、小学生女子9・7%、中学生男子11・3%、中学生女子7・3%と、いずれも男子のほうが高かった。

不安や悩みがあるときに相談する相手を見ると、小学生・中学生ともに1位は「母親」で、2位は小学生では「父親」、中学生では「友だち」となった。

次に毎年きている項目についてお伝えする。こちらもきき方について少しアレンジをしている。

◆ 「おこづかい」から見てくるもの

おこづかいについては、毎年質問を行っているが、毎月決まった額をもらう「定額制」以外に、使う分をもらう、必要なときにもらう、という「申告制」

でもらい方もあるようだったため、今回新たに「もらい方」も調査した。また、現金以外に電子マネー(ICカード含む)でもらい方もあるのではないか、という予想から、現金でもらうのか、電子マネーでもらうのか、という質問も加えた。

〈小学生〉

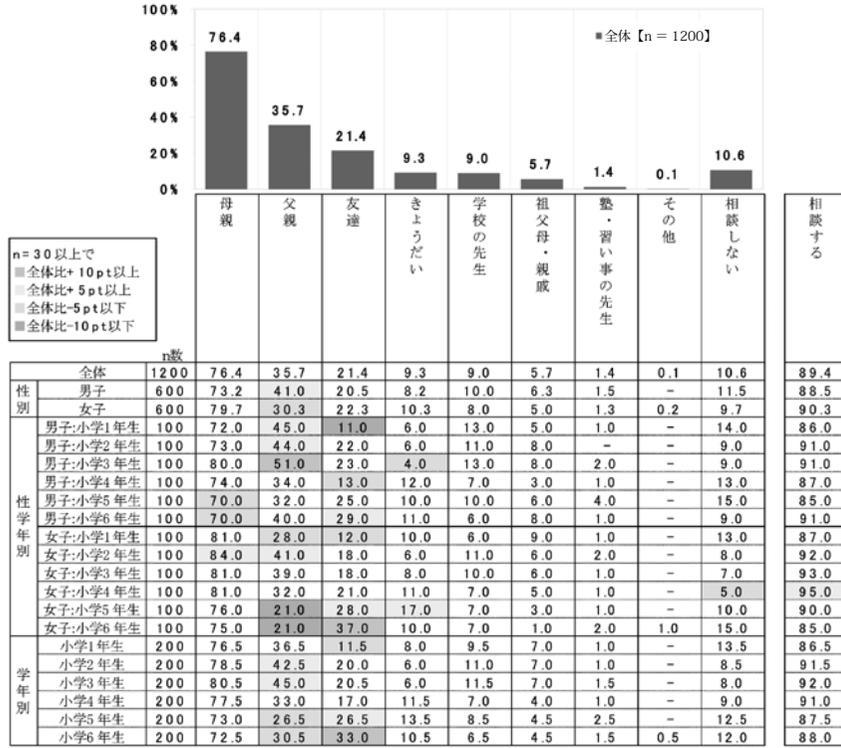
「定額制」：「現金」39・7%、「電子マネー」4・9%、「もらっていない」57・8%
 「申告制」：「現金」43・2%、「電子マネー」5・9%、「もらっていない」54・1%
 「もらっていない」のデータ(現金と電子マネーの重複を考慮)から、「申告制でもらっている」約46%、「定額制でもらっている」約42%となり、定額制より必要なときにもらう申告制が多いことがわかってきた。

〈中学生〉

同様に中学生は、
 「定額制」：「現金」63・2%、「電子マネー」7・8%、「もらっていない」33・5%
 「申告制」：「現金」62・8%、「電子マネー」10・8%、「もらっていない」33・7%
 となった。

資料2 小学生白書 悩み事を誰に相談するか？

◆不安や悩みがあるときに、誰に相談しますか。(あてはまるものをすべて)



(%) ※全体の値を基準に降順並び替え

●学研教育総合研究所

おこづかいを電子マネーで、という割合は、予想より多いという印象であったが、大人が日々電子マネーで支払い等をしている率の高まりを考えると、うなずける結果なのかもしれない。ただし、我々大人は成長の過程で、硬貨や紙幣といった実体での金銭のやり

（アプリの課金）

取りを経験してきており、いわゆる「量感」を伴った上でデジタル化に対応してきている。このあたりをどのように捉えるかは、教育目線でも考える必要がありそうだ。

電子マネーの使い道の一つにアプリの課金がある。今回の調査では、アプリの課金についても聞いてみた。小学生が「課金したことがある」は23・1％で、課金したアプリのジャンル上位3つは「ゲーム」(14・2％)、「動画・映画」(4・8％)、「勉強・学習」(4・4％)となった。

中学生では「課金したことがある」は38・7％で、ジャンル上位3つは「ゲーム」(24・3％)、「動画・映画」(10・7％)、「音楽」(8・8％)となった。

◆月の読書量、どうなるか

毎年過去最低を更新し続けてきた「読書量(冊数)」だが、今回より「本(紙の本)」「まんが」「電子書籍」に分けて聞いてみた。今後、どのように推移するか様子を見たい。

〈小学生〉

【本】「1冊」(14・8％)や「3〜4冊」(20・8％)などに回答が集まり、平均は4・0冊となった。「読まない」は30・2％。

【まんが】まんがを読む冊数の平均は2・5冊、「読まない」は49・2％。

【電子書籍】読む冊数の平均は0・6冊、「読まない」は85・1％。

まんがを中心に電子書籍が年々普及してきているものの、小学生の読書で

は紙媒体の利用が中心という結果に。

〈中学生〉

【本】「1冊」(23・8％)に多くの回答が集まり、平均は1・6冊に。「読まない」は40・5％となった。

【まんが】読む冊数の平均は2・1冊、「読まない」は40・8％。

【電子書籍】読む冊数の平均は1・1冊、「読まない」は77・0％。

調査を始めてから40年以上が経ち、時代、時代の子どもの姿を映し続けてきた「白書」シリーズであるが、生活実態を見ると、社会の変化に伴い、変わるものと、人の成長という点で変わらないものもあると感じている。今回は、後編として学習面の調査についてお伝えしたい。

〈2023年12月末現在公開されているその他の調査項目〉

起床・就寝時刻、親子の触れ合い時間、お年玉・習い事、将来なりたいもの、通信機器の利用多寡、「推し」について、憧れる大人像、など各30問程度

「小学生白書」「中学生白書」

(2023年10月調査)



●白書シリーズ

<https://www.gakken.co.jp/kyouikusouken/whitepaper/index.html>

教育ジャーナル Vol.22 2024年

【調査概要】

調査対象…小学生・全国の小学1〜6年生とその保護者1200組、中学生・全国の中学1〜3年生とその保護者600組

調査期間…2023年10月27日(金)〜11月1日(水)

調査方法…インターネット調査